

(2) 1歳児

1歳児 活動事例 1

おいしくなあれ (8月)

観点 (生活)

視点 (健康 ~げんきいっぱい~ 食育)

【遊びの経過】

子どもたちは、調理の手伝いを通して普段なかなか触れることのない食材に触れ、興味をもち始めている。苦手なものでも自分から食べようとする気持ちが高まってきた。

【ねらい】

興味・関心をもって食材に触れ、自分で食べようとする意欲をもてるようにする。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★調理師から話を聞く場を設定する。

○興味をもって調理師の話聞く。



きのこだ。
【興味・関心】

♪きっきききのこ♪
【気付き】

何かな。【疑問】

■自分から食べようとする意欲をもたせるために、今日の給食の食材であるしいたけを実際に指でちぎって見せて、期待感を高める。

★ちぎったしいたけを入れやすい位置にざるを用意する。(各テーブル)

○食材の感触を感じながらちぎったり、ざるに入れたりする。

いやだ。やりたくない。
【葛藤】

ふわふわ、ぎゅっ。
【気付き】【探究心】

ちぎちぎ。
【楽しさ】

おもしろいなあ。
【夢中】

やったあ。できた。
【満足感】



■子どもが感じたしいたけの感触と一緒に驚いたり楽しんだりする。
■自分でちぎろうとする姿を見守り、「上手だね。」「たくさんちぎれたね。」と声をかけ、満足感を味わえるようにする。
■とまどっている子どもには、分かりやすくちぎり方を知らせたり、手を添えたりして一緒にちぎっていく。
■嫌がる子どもには無理強いせず、友達がちぎる様子と一緒に見ながら少しずつ興味をもてるようにする。

○しいたけを見つけ、喜んで食べてみる。苦手な子どもも食べてみようとする。

おいしいなあ。
【喜び】

あった。ぼくのちぎったしいたけ。
【発見】



食べてみよう。
【チャレンジ】

■給食を配膳し、「みんなのちぎったしいたけはどこかな。」と一緒にしいたけを探す。
■子どもたちと一緒に食べながら「○○ちゃんのちぎったしいたけかな。」「おいしいね。」と声をかけ、楽しい雰囲気の中で自分から食べられるようにする。

【評価】

- ・食材に触れ、感触を楽しんだり、不思議さを感じたりしている。
- ・調理の手伝いをし、喜んで自分から食べようとしている。

1歳児 活動事例2

片付け楽しいね（10月）

観点（生活）

視点（生活習慣 へみにつけようへ）

【遊びの経過】

片付けの時間になっても遊びに夢中になり、なかなか片付けをしようとしなかったが、少しずつ保育者に促されて片付けようとする姿が見られるようになってきた。

【ねらい】

遊んだものを保育者と一緒に片付けることを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★個々に楽しみながら片付けられるように、牛乳パックちりとりを見せる。

○牛乳パックちりとりをもらって喜び、見せ合う。

見て。【喜び】



いっしょ、
いっしょ。
【気付き】

何するのかなあ。【期待】

- 「ここにたくさん入れようね。」と牛乳パックちりとりにごみを入れて見せ、楽しんで集められるようにする。
- すぐにやってみたくないと要求してきた子どもに、牛乳パックちりとりを手渡す。

○遊びに使った新聞紙の切れ端を拾ったり、友達の姿を見てまねたりする。

これも、これも。いっぱいにするよ。【夢中】



ふうん。そうするんだ。【気付き】

- 「いっぱい入れたね。」とたくさん拾っている子どもの姿をまわりの子どもに知らせ、「○○ちゃんも入れてみようか。」など、片付けが楽しくなるような言葉かけをする。
- 子どもの様子を見ながら「ちりとりがいっぱいになったら、ごみ箱に入れようね。」と声をかける。

○新聞紙をごみ箱に移してまた拾いに行く。

代わって。
【要求】

ぼくもやり
たい。【葛藤】



いっぱい入っ
ているよ。
【喜び】

出ないなあ。
振ってみよう。
【試行錯誤】

- 部屋の片付けをがんばったことに気付けるように、ごみ箱がいっぱいになったことを伝える。
- 満足感が味わえるように、みんなで「やったあ。」と言い合う。

【評価】

・保育者と一緒に牛乳パックちりとりを使って、自分から片付けをしている。

1歳児 活動事例3

ブロックスタンプを楽しもう（10月）

観点（ 人とのかかわり ） 視点（ 自己発揮 〜みて、きいて〜 ）

【遊びの経過】

ブロックを使ったスタンプ遊びに、夢中になって取り組む姿が見られる。この遊びをもっと続けたいと自分の思いを伝えられるようになってきた。

【ねらい】

スタンプ遊びを通して、自分の思いを保育者や友達に自分なりの方法で表す。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★前回の活動で使ったものや今日の活動で使う模造紙やブロックを見せ、期待を膨らませていく。

○早く遊びたい気持ちを伝える。

何をするのかな。
【興味・関心】

まだかな。早くやりたい。【期待】

ちょうだい。
【欲求】

おもしろそう。【意欲】



■子どもたちが進んでやってみようとする姿を引き出すために、すぐに声をかけるのではなく、子どもの様子を見ながら要求に応える。

■遊び出すきっかけを待っている子には、自分の思いが出せるように様子を見て、「やってみようか。」など声をかけていく。

★一人でじっくり楽しみたい子どものために、テーブルや画用紙を用意する。

○自分の思うようにどんどんスタンプを押している。

ぎゅう。
楽しいな。
【満足感】

これでしてみる。
【探究心】

きれいだなあ。
【感動】【喜び】

あっ、音がする。気持ちいい。【満足感】



■子どもの楽しい気持ちに共感しながら、一人一人の楽しみ方を受け止める。

■自分が思った通りにスタンプが押せるように、保育者も一緒に活動し楽しさを共有していく。

○スタンプ台を一人で使いたいと友達や保育者に訴える。

一緒にしよう。
【人とのかかわり】【思考】

はいどうぞ。
【自己決定】【葛藤】

やっぱりいやだ。
【独占】【葛藤】



■使いたいという思いをうまく相手に伝えられずにいる子どもには、言葉を知らせたり添えたりして伝えられるようにする。

■一方で、一人で使いたい気持ちを表している姿も受け止めるようにする。

■子ども同士で「一緒にしてもいい。」「いいよ。」などのやりとりができたときには、「よかったね。」「うれしいね。」と子どもの気持ちに共感していく。

【評価】

・保育者や友達に自分の思いを表情や言葉、行動などで伝えようとしている。

1歳児 活動事例4

汽車ごっこをしよう（1月）

観点（興味・関心）

視点（表現 へつたえたいな しりたいたいなへ）

【遊びの経過】

歌や手遊びを好み、歌詞を覚えて歌おうとする子どもが多くなり、好きな歌をリクエストしたり、曲に合わせて体を動かしたりして楽しむようになってきた。

【ねらい】

歌うことを喜び、リズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★ピアノを弾き、歌いたくなるような雰囲気をつくる。

○保育者の側に行き、好きな曲を要求し歌い出す。



〇〇がいい。
先生、早く弾いて。
【要求】

リンゴがいい。
〔曲名：リンゴとみかん〕
【要求】

■喜んで歌えるよう子どもたちの要求を受け入れながら、子どもたちが親しんでいる歌を表情豊かに楽しみながら歌う。

■より興味をもてるように、ペープサートなどを使って楽しさを伝える。

★歌に合わせて体を動かして楽しめるよう安全に配慮し、広い場所を選ぶ。

○汽車ごっこの歌に合わせて、保育者や友達と体を動かすことを楽しむ。

いっしょ、いっしょ。
【喜び】

いいなあ。
【興味・関心】

ポッピー。
【楽しさ】

〇〇ちゃんも、やりたい。【要求】



■興味・関心をもてるよう保育者が運転手になり、子どもたちを誘う。

■子どもたちが、思わず体を動かしたくなるようなテンポのよい曲を用い、自然に体を動かすことを楽しめるようにする。

■保育者が運転手になり、汽車ごっこの曲に合わせてつながる楽しさも感じられるように、「〇〇ちゃんどうぞ。」と誘っていく。

【評価】

・保育者と一緒に牛乳パックちりとりを使って、自分から片付けをしている。